

過去最高額の軍事予算案

アメリカと一緒に先制攻撃できる国をめざす

21年度政府予算案の防衛費（軍事費）は、5兆3422億円。7年連続で過去最高を更新しました。

その特徴は、自民党の防衛大臣経験者らでつくるミサイル防衛に関する検討チームが提言した「敵基地攻撃能力保有」や「日米軍事一体化」を財政面から推進するものとなっています。そして、それは

「九条改憲」と一体に日本を「アメリカと一緒に先制攻撃にできる国」に変貌させることをめざすものです。

具体的には、陸上自衛隊の12式地対艦誘導弾（陸上から海上の艦艇を攻撃するミサイル）の射程距離延長に向けた開発費に335億円を充てるなど、敵基地攻撃能力の将来的な保有につながる項目が多く盛り込まれています。また、射程距離を延ばした上で艦艇や戦闘機へ搭載もめざしています。射程距離は900キロメートル程度となる見込みで、日本領域内から他国への攻撃が可能になります。

※900kmとは、金沢から鹿児島県の屋久島まで届く距離。国外では金沢から北朝鮮国内まで届く距離です。

また、将来的に105機購入予定のステルス戦闘機F35Aに搭載し、約500キロメートルの遠距離から攻撃可能なノルウェー製長距離巡航ミサイルの取得費には149億円を計上しています。

※500kmとは、金沢から広

島市や仙台市まで届く距離。

レーダーに捉えられにくく他国に侵入可能なF35Aは4機で391億円。狭い艦艇から離着陸可能なF35Bは2機で259億円の取得費を計上。護衛艦「いずも」に続き、F35Bを搭載する護衛艦「かが」の改修費として203億円を計上。甲板の耐熱加工や艦首の形状変更により事実上の空母化がすすめられることになります。

※「いずも」型護衛艦は、現在「いずも」と「かが」の2隻が在籍。

菅義偉首相は、敵基地攻撃能力保有の検討について年内の結論を見送りましたが、予算案に示された武器がそろえば、事実上の能力保有が進むことになります。

軍事費のからくり

過去最高額の防衛予算案ですが、実際はそれより3867億円多い5兆7289億円です。本年度の第3次補正予算がほぼ来年度の防衛予算の不足を補う「別腹会計」と化しているためです。つまり、本来21年度予算に計上しなければならない予算を、前年度の補正予算の形をとって補っているのです。

グローバルホーク（大型無人偵察機）、オスプレイなどのアメリカ製の高額な兵器を有償対外軍事援助で調達しているため、防衛予算が圧迫されて他の装備や燃料を含む必需品、整備費などの予算が圧迫されるためです。

また、高額な兵器や大規模な基地整備は単年度では支払いきれないため、複数年度で分割して後払いする「後年度負担」

（いわゆるローン）も組まれています。21年度には、「後年度負担」は5兆5千億円に達するとされています。ローンですから毎年の防衛予算に返済額が計上されます。現在、防衛予算の約4割を占めているのが、「歳出化経費」と呼ばれるローン返済なのです。

（事務局長 柴原 和美）

ニュース フラッシュ

- 12月4日 「『敵基地攻撃』と大軍拡に反対する12・4学習会」がオンラインで開催
- 8日 「12・8平和を守るついで、漆崎英之牧師が「天皇の代替わりと戦争」で講演
- 9日 県原水協、新婦人がエムザ前で「6・9署名行動」
- 9日 「怒りの昼デモ」で山野健治代表理事が決意表明
- 10日 「記憶の灯り希望の宿へ」出版実行委員会が総括会議
- 15日 安保破棄県実行委、平和委員会が恒例の「沖縄連帯宣伝署名行動」をエムザ前で行いました
- 18日 新婦人小松支部が「治安維持法の学習会」講師：佐藤公男常任理事
- 19日 市民アクション・いしかわがエムザ前で定例の街頭宣伝
- 20日 平和町9条の会の学習会で柴原和美事務局長が話題提供
- 23日 「怒りの昼デモ」
-
- 2021年
- 1月1日 尾山神社前での「元旦署名」は、悪天候が予報され中止
- 6日 「6・9行動」
- 6日 怒りの昼デモ
- 15日 沖縄連帯宣伝署名行動
- 20日 昼デモ
- 22日 核兵器禁止条約が発効
- 23日 北陸原水協学校がオンラインで開催され、県内3カ所で25人が聴取

